

製本のススメ

Vol. 104

今年は秋が短いような・・・街路樹も大急ぎで冬支度です。いま、立川の昭和記念公園にある日本庭園のまわりは、和風の美しい風景が広がっています。中では抹茶サービスもあり、池に映る紅葉をめでつつ風流が味わえます。

今回は**企画の為の製本チェック**の話し

商品作りは『企画→編集→デザイン→文字校正・版下作成→印刷→製本』と多くの工程が関わってきます。この最初の企画段階で、意外と軽視されるのが製本加工ですが、この企画段階で製本加工(あるいは後加工)をしっかり決めていかないと、大きなトラブルに直結することがあります。

① 用紙の厚みは適正でしょうか？

厚すぎて折機は使えない・薄すぎて強度が足りない 束厚を出すために厚紙を使用した など 用紙の選択ミスが一番多いのです。

② 製本条件に合わない無理な企画はしていませんか？

一か所に折込み等厚みの出るものが集中しているなど。本作りの仕組みにそぐわない物が増えています。

③ 製版 印刷の際に製本工程を考慮した処理がなされていますか？

画集 写真集のようなカラーでインクが多量に用紙につく物は、製本加工時にブロッキングや背剥がれなどが極めて出やすく、接着剤の着きも悪くなります。(防止策は次回！)またインクが乾かないと製本加工はできません。十分な乾燥やニス引きなど処理をしましょう。

④ デザイン優先のみになっていませんか？

のりしろ 断ちしろの忘れも多くなっています。また加工上 ノドの開きに制限があることも多く、特に見開きの場合 ノドの絵柄が隠れてしまう事もあります。

⑤ 製本のプロに十分なアドバイスを受けていますか？

接着剤の適正・用紙の厚み・紙目・また加工上の不具合や加工時間など、製本加工の意見を事前にきいておくことが大切です。

製本加工は最終工程ですが、もっとも早く検討しなければならない重要な項目です
早く・きれいに・安く商品を作るには、肝心要なのです。



Tea break

椿油がヘアケアに良いのは有名ですが、先日この大島椿の方とお話をしましたら、なんとヘアケアだけでなく体にも効果抜群！アトピーの方でも安心して使えます。パッケージはダサイのですが、中身は最高です。偽物もあるので、必ず(株)大島椿のあるものを。詳しくはWEBで[検索](#) by (株)井関製本